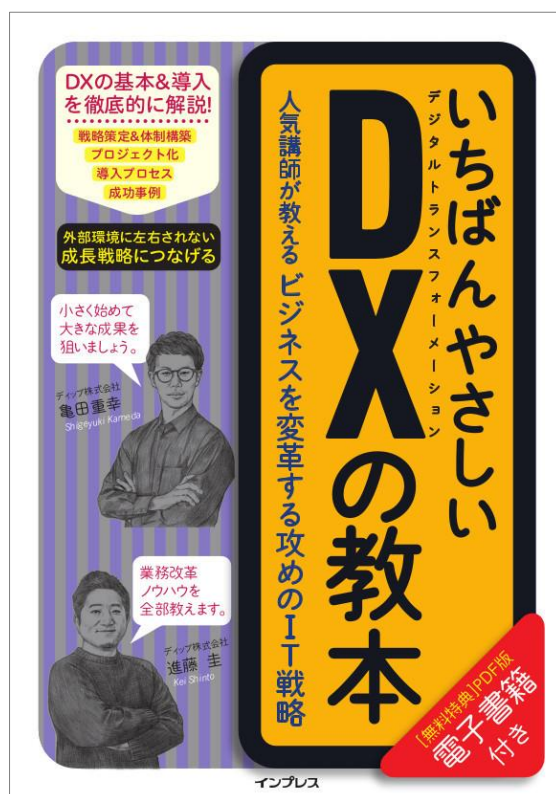


各 位

2020年9月17日  
株式会社インプレス

どんな企業でもDXを実現できるノウハウを凝縮した  
『いちばんやさしいDXの教本 人気講師が教えるビジネスを変革する攻めのIT戦略』を9月18日に発売

インプレスグループでIT関連メディア事業を展開する株式会社インプレス（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：小川 亨）は、DX（デジタルトランスフォーメーション）の進め方を現場目線で解説した新刊「いちばんやさしいDXの教本 人気講師が教えるビジネスを変革する攻めのIT戦略」を2020年9月18日（金）に発売します。



## ■どんな企業でもできる、DXのやさしい指南書

「DX」（デジタルトランスフォーメーション）が、テレビや経済誌などで取り上げられる機会が増えています。DXとは「デジタルによる変革」、やさしい言葉でいえば「デジタルによって仕事や生活をよりよくすること」ですが、日本では、ビジネスの競争力を高めるために国が推進している取り組みでもありません。奇しくもテレワークが働き方の新常識になりつつあるいま、DXは待ったなしの状況であり、外部環境に左右されない企業体質をつくり上げるうえでも避けて通れません。

本書は、DXのために必要な知識と実行ステップを、現場目線で丁寧に解説しています。ペーパーレス化など小さい規模のデジタル化から行い、徐々にビジネスプロセス、ビジネスモデルの変革を目指せるように、豊富な図を用いて解説しているのが特徴です。実際にDXを推進する立場の人から、先端テクノロジーに関心のある人まで、専門知識不要でスラスラ読めるDXのいちばんやさしい解説書です。

<本書はこんな人におすすめです>

- ・ 知識ゼロからDXのことを学びたい人
- ・ DXを実現するための具体的な手順を知りたい人
- ・ DXプロジェクトを推進したい人
- ・ レガシーシステムを刷新したい人
- ・ デジタルを駆使した新規ビジネスを興したい人
- ・ 先端テクノロジーに興味がある人

## ■購入者限定特典、電子版（PDF版）がもれなく付いてくる

本書をご購入いただいた方には、もれなく電子版（PDF版）のダウンロード特典が付いてきます。同じ本をタブレットなどでも読みたい場合にご活用いただけます。「蔵書もデジタル管理したい」という場合に便利です。

**Lesson [デジタル化]**

# 26 デジタル化の進め方

**デジタル化のゴール**

デジタル化でデジタル化したデータをビジネスプロセス上で活用することがデジタル化です。とても幅広い領域に関わる内容ですが、ここでのゴールは、レガシーシステムを刷新し、ユーザーが扱いやすい業務システムを開発することです。そこにはデータを活用する土台を構築するという目的もあります。デジタル化でデジタル化したデータは、クラウドなどに保存さ

れているでしょう。それらのデータを必要に応じて利用し、また、インプットされたデータを利用可能な状態にします。単に業務システムの効率化だけを考えて設計すると、必要のないデータや解析に使用できないデータも膨大に増えてしまう恐れがあるため、デジタル化と同様に、どのデータを活用したいのか、あらかじめゴールを見据えて開発していきます。

**開発の進め方**

レガシーシステムを刷新するための工程を見ていきましょう (図表26-2)。従来の開発工程と大きな違いはありません。特に注力すべき工程は「企画」「設計」「開発」です。企画の工程では、ユーザーがシステムを操作しやすく、データを入力しやすいうえにユーザビリティを考慮することが重要です。その結果、業務効率化が行われてデータも集まってくるのです。そのためには、ヒアリングなどを通じて得た課題をしっかりと把握して、解決策を考えていきましょう。設計工程では、データに主眼を置きます。

データが業務システムにどうインプットされ、どうアウトプットするのがよいか検討することが重要です。インプットされたデータの利用は、システム内だけで完結するものではありません。開発工程で重要なのは、スピード感です。そのため既存のシステムをいかに効率よく改修していくかを考える必要があります。ユーザビリティを考慮したとしても、使ってもらえるかどうかはわかりません。失敗してもすぐに改善が行えるように、開発体制を構築します。

**デジタル化の工程 (図表26-2)**

**DXプロジェクト**

課題の発見 → 解決策の立案 → 実行 [デジタル化] [デジタル化]

ビジネスプロセスを見える化し課題を見つける → 課題をどう解決するか決める → 解決策を実行する

デジタル化する具体的な業務を優先順位をつけて選定する → SaaSの開発か、など解決手段を決める → 企画、仕様策定 → ツールを開発、導入し運用開始

**開発の流れ**

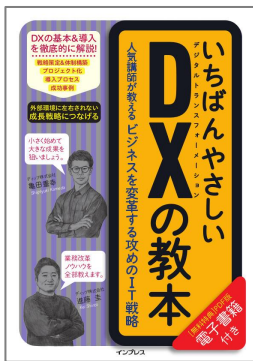
・仕様書の作成ポイント → レッスン 27 ・カスタマージャーニーマップの活用 → レッスン 28 ・エレベーターピッチの活用 → レッスン 29	・設計の注重点 → レッスン 30 ・すばやく始める → レッスン 31 ~ 32 ・RPAの活用 → レッスン 33 ・アジャイル開発 → レッスン 34	・プロトタイプ → レッスン 35 ・ユーザーテスト → レッスン 36 ・リリース → レッスン 37 ・評価 → レッスン 38
--	---	---

著者陣のセミナーを紙上で再現したような読みやすい紙面構成

## ■目次

- Chapter1 DXを正しく理解する
- Chapter2 企業体質をデジタルファーストにする
- Chapter3 DX時代の開発手法
- Chapter4 新しいビジネスを生み出すデジタル化
- Chapter5 事例に学ぶ、成功するDXのポイント
- Chapter6 DXの先を見据えて

## ■書誌情報



書名：いちばんやさしいDXの教本 人気講師が教えるビジネスを変革する攻めのIT戦略

著者：亀田重幸（かめだ しげゆき）、進藤 圭（しんとう けい）

発売日：2020年9月18日（金）

ページ数：192ページ

サイズ：A5判

定価：本体1,800円＋税

電子版価格：1,800円＋税 ※9月発売予定 ※インプレス直売価格

ISBN：978-4-295-00980-1

◇書誌情報：<https://book.impress.co.jp/books/1119101166>

◇書影ダウンロード：<https://dekiru.net/press/500980.jpg>

## ■著者プロフィール

亀田重幸（かめだ しげゆき）

ディップ株式会社 dip Robotics 室長

プログラマー、インフラエンジニア職を経て、ディップにてバイトルのiOS/Androidアプリを企画立案。エンジニアとディレクター両側面スキルを活かし、数多くのプロジェクトマネジメントを手掛けた。その後の新規事業開発では年間30本以上の事業を立案。ユーザー目線を重視した顧客開発を行い、UXデザイナーとしても活躍。

進藤 圭（しんとう けい）

ディップ株式会社 執行役員 次世代事業統括部/dip AI.Lab室長

早稲田大学を7年かけ卒業後、ディップに新卒入社。営業職、ディレクター職を経て、開始後3年で15億円の売上に成長した看護師人材紹介「ナースではたらこ」など、40件以上のサービス企画に参加。直近では、AIアクセラレーターやDigital labor force「コボット」を提供するAI・RPA事業がある。

以上

---

### 【株式会社インプレス】 <https://www.impress.co.jp/>

シリーズ累計7,500万部突破のパソコン解説書「できる」シリーズ、「デジタルカメラマガジン」等の定期雑誌、IT関連の専門メディアとして国内最大級のアクセスを誇るデジタル総合ニュースサービス「Impress Watch」等のコンシューマ向けメディア、「IT Leaders」、「SmartGrid ニュースレター」、「Web 担当者 Forum」等の企業向けIT関連メディアブランドを総合的に展開、運営する事業会社です。IT関連出版メディア事業、及びデジタルメディア&サービス事業を幅広く展開しています。

### 【インプレスグループ】 <https://www.impressholdings.com/>

株式会社インプレスホールディングス（本社：東京都千代田区、代表取締役：松本大輔、証券コード：東証1部9479）を持株会社とするメディアグループ。「IT」「音楽」「デザイン」「山岳・自然」「モバイルサービス」「学術・理工学」「旅・鉄道」を主要テーマに専門性の高いメディア&サービスおよびソリューション事業を展開しています。さらに、コンテンツビジネスのプラットフォーム開発・運営も手がけています。

### 【本件に関するお問合せ先】

株式会社インプレス 広報担当：丸山

TEL：03-6837-5034 E-mail：[pr-info@impress.co.jp](mailto:pr-info@impress.co.jp) URL：<https://www.impress.co.jp/>